

自由競争にルールがある
とすれば、それはどのよう
にして決まるのであろう。

「道徳感情論」は「同感
について」という章で始ま
る。「同感」とは同じよう
に感じることである。特定
の他人の感情や行動につ
いて、想像力を働かせ、自
自身を他人の境遇に置き換
え、いわばその人の身体に
入り込み、ある程度その人
になって考えてみる。
その時、他人と同じよう

危機・先人に学ぶ アダム・スミス

4 行動を決める同感

に自分も感じ、行動すると
思うなら、自分はその他人
に同感する。同感するなら
その他人の感情と行為を認

められる。同感しなければ
他人の感情と行為を認める
ことができない。
自分の感情と行動は、公
平で中立的な観察者を想像
し、その立場から見るとよ
くなる。観察者が同感する

か否かで、自分の感情や行
動が他人によって是認され
るか否かを判断するのであ
る。

スミスは「道徳感情論」
でも個人が利己的な行動を
採ることを否定しない。し
かし、誰かの足を引っ張る
ような行為をしたり、邪魔
をしたりするなら、公平な
観察者はそれを認めないは

ずである。自由競争とはフ
ェアプレーを逸脱しないも
のであるべきなのである。

自分の利益を最大化しよ
うとする行動も、他人が同
感する範囲にとどめること
によって、自己規制がかか
る。従って、法律や規制も、
皆が等しく同感する範囲に
とどまるべきである。
なぜなら、「政府の利害

京都大学名誉教授 西村 和雄

関心が、ときには政府を圧
政化している特定階層の
人びとの利害関心が、その
国の実定法を、自然的正義
があらかじめきめただろう
ものから逸脱させる」（水
田洋訳）からである。これ
は現代の日本にそのまま当
てはまるように思える。
個人は1人で生きられな
い。常に他の人の存在や力
を必要としている。同時に、
他の個人や集団による心無
い侵害の危険にもさらされ

ている。故に社会には慈愛
と正義が必要である。
しかし、社会には正義が
より重要であるとスミスは
言う。「社会は慈恵なしに
も、もっとも気持ちがいい
状態においてではないとい
いえ、存立しうるが、不正
義の横行は、まったくそれ
を破壊するにちがいない」
不正義を許さない法は、
社会が存立するためにも必
要である。自由放任では社
会が存立しえない。